

サルが人慣れしたこともあって、一部の個体識別がはじめて行われ、習性上の発見も多くなされた。冬季にはかえって奥山へ入るが、苛烈な生息条件にもかかわらず、個体数の減少もなく、とくに衰弱した徴候を示さなかった。

4. 屋久島研究林（候補地）

本地域での調査活動は、屋久島研究グループによる共同利用研究（計画）によってすすめられている。

研究林予定地域のほぼ中央に位置する旧K₀群の分裂によって生じた3群と1つの近接群について人づけ個体識別にもとづく分裂過程の追跡が丸橋、黒田、山極らを中心にすすめられた。

また、その他5つの群れについて個体数、性年令構成の変動データが1974年以降の継年調査でえられていて、全域の群れの概況も明らかになりつつある。

スマトラ自然研究計画による霊長類研究

スマトラ島は、本島だけで日本全土よりひろく、大小の属島群をふくめ、大半が未開発区域である。現生霊長類だけでも、オランウータン、4種のテナガザル、3種のマカク、5種のヤセザル、5〜7種の原猿類が住み、種の豊富さは世界でも抜ん出た存在である。

昭和49年度にはじまるヤセザル類の比較社会学的研究が、インドネシア側研究者との密接な協力下で約5年間展開され、成功裏に終わったが、その第2期計画に当り、さらに植物（森林生態・分類）・昆虫生態の2分野を加え、霊長類学とともに、スマトラおよび属島の生物自然のより総合的な研究に発展せしめることとなった。この新計画は、昭和55〜59年度の5年間とし、54年度にその準備が行われた。その結果、日本学術振興会の特定国間学術交流の一環としてとり上げられることとなり、いくつかの民間財団が支援することとなった。研究計画の中軸となるのは、インドネシア国立アンダラス大学に、博物館の要素を含む研究室を建設することであり、目下のところ国の文教予算には、かかる施設を国外に建設する準備がなく、民間に頼らざるを得ない。研究費の面では、科研費も充当されることになっている。

さて霊長類学の分野では、先ず以前からの継続である、ヤセザル類にマカク類を加え、その社会・

生態的側面が追求され、しだいに他の系統にも及ぶ予定である。形態および系統学的観点からの研究も重要視されているが、とくにスマトラは、かつてデュボアが最初の古人類化石を求めて成功せず、ジャワに移ってピテカントロプスを発見したという因縁の地でもあり、古霊長類学上の追求が期待される。この他、遺伝学および生化学的側面からの努力も加えられる予定である。

これまでの経過から、スマトラ自然研究計画のセンターは当研究所におかれ、計画促進委員会には、委員長他3名の委員が出ている。なお計画を支援する募金委員会があり、総長を会長に、事務局長・関係部局長の参加をえて活動をはじめている。

計画には上記の研究室建設と研究そのものの他に、両国の若い研究者を育てる意図を盛り込み、未開発の自然研究が有する社会的意義の認識のもとに、日・イ両国の親善と発展の一石としても役立ちたいと考えている。

（川村俊蔵）

大学院学生

昭和54年度における京都大学理学研究科動物学専攻霊長類分科の学生、指導教官および研究テーマは次のとおりである。

氏名	学年	指導教官	研究テーマ
渡辺邦夫	D3	川村 俊蔵	メンタウエイに生息する霊長類に関する比較社会学的研究
菅原和孝	D3	河合 雅雄	ヒヒ類の種間関係についての社会学的研究
B. S. グレワル	D3	河合 雅雄	ニホンザルにおける活動様式と行動の社会生態学
J. ブルトン	D3	川村 俊蔵	湯河原におけるニホンザルの社会行動および社会構造の分析
十川和博	D3	高橋 健治	霊長類の組織タンパク質の分解機作の研究

浜田生馬	D3	久保田 競	皮質運動ニューロンの準備的活動の研究	藤田和生	D1	室伏 靖子	ニホンザルの概念学習に関する実験的研究
丸橋珠樹	D3	河合 雅雄	ヤクザルの社会生態学的研究	今井一郎	M2	田中 二郎	沖縄県西表島における狩猟, 漁撈, 採集
森山昭彦	D3	高橋 健治	霊長類のタンパク分解酵素の性状の研究	浜田 穰	M2	近藤 四郎	ニホンザルおよびその他のマカクの形態形成
伊藤真一	D2	久保田 競	注意発現の神経機構の研究	星野二郎	M2	河合 雅雄	ニホンザルの群におけるオトナオスの役割
川本 芳	D2	野澤 謙	遺伝的変異よりみた霊長類の系統に関する研究	鹿野一厚	M1	田中 二郎	小笠原野生化ヤギの社会生態学的研究
小島哲也	D2	室伏 靖子	ニホンザルの個体認知行動の実験的分析	宮藤浩子	M1	河合 雅雄	ニホンザル自然群におけるメス離脱による分裂群の形成過程に関する研究
松本 真	D2	江原 昭善	霊長類の顎・顔面頭蓋の形態学的研究	ジャン・バルセロ	M1	河合 雅雄	ニホンザルの顔の表情の研究
川合恭子	D1	近藤 四郎	霊長類足骨に関する形態学的研究				
船橋新太郎	D1	久保田 競	スキルネスの神経機構の研究				